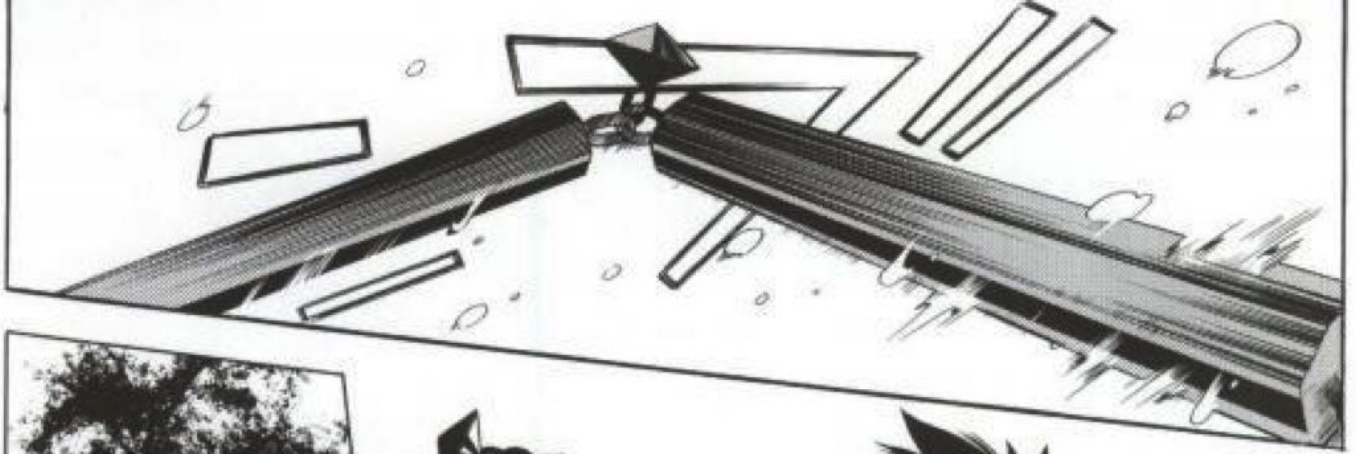


魚人恋!

18
adult
only

木桶に張った静穏な空を仰ぐ茜色の金魚が
体を躍らせては太陽の陽ぞ赫変し燃えろ





あの…

食満先輩
こんにちは

一年ろ組みの
下坂部平太です

カッ
平太
大丈夫か!?

すまん!
汗で手が
すべっちゃまった
怪我はないか!?

きょろきょろ
しました〜

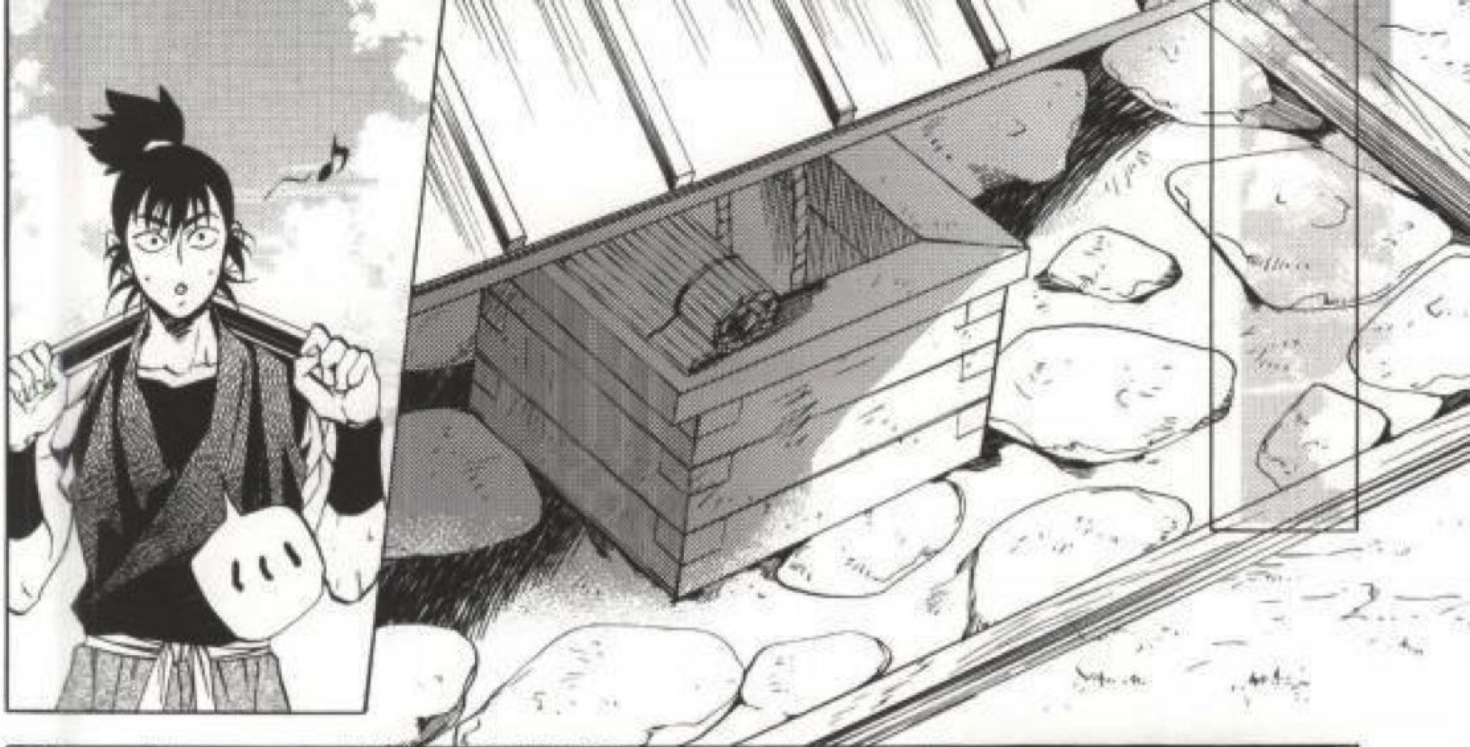
用具の点検が
終わったので
確認の判を…

六年長屋は
何かと危ねえから
めったなことで
来るんじゃないぞ

はい
すみません
気をつけます〜

監修: 藤原 新之助









金魚だ



まだ
見てねえな

ああ、学園長が
福富屋さんに
もらったっていう
赤い魚のことか



金魚？

あ、

いや

和金のことだ
異国では金魚
とよぶらしい





おい
きいたか
学園長先生の
金魚のこと

なあ
犯人誰だと
思う？

俺聞いちやったん
だけじゃあ

きいたきいた
俺も見たかったなあ
その金魚っての

いっただき
まーすツ



おい、お前たち
こそこそ陰口
叩いてないで

言いたいことが
あるなら
はっきり言わんか



ヒリ
モッ
ヒリ



おばちゃん
ごちそーさま！



い、いえ
なんでも
ありません!!!

うわっ

どーかしたのか
文次郎？

なんでもない
気にするな
小平太

噂というのは
当事者とは
関わりなく
広がるものだ

小平太
お前、学園長先生の
金魚のことは
知っているか？

妙な噂が
立っているのだ

おい
仙蔵

うん

その金魚が
先刻睡蓮鉢から
姿を消したのだ

まさか小平太が
食っちゃまったんじゃ
ねえかって噂が
立ってんじや
ねえだろうな

僕か……

ばかやろう！
いくら小平太が
食い意地はって
いるからって

観賞用の
金魚なんぞ
食うわけねえ
だろうがっ！！

私そんなに
食い意地
はっているかな？

当たり前だ
バカタレ

何だと
文次郎！

金魚が消える
少し前に見たものが
いるのだ

睡蓮鉢の前で
動かなくなった金魚を
呆然と眺め
立ち尽くしている
お前の姿を

ふんふん
んんん

それは

.....







小平太は無益に殺生をするような奴じゃありません!!

あいつは...

学園長先生の金魚のことで小平太のあらぬ噂が広まっているようですが



え?

そんなことはわかっておる



七松くんは野良猫が金魚を啜っているとるを追っ払ってくれたんだ

気づいた時には遅かったんだけどね



学園長先生の金魚がいなくなっちゃったのは野良猫の仕業なんだよ

のらねこお!!?

たぶんその時に
タイミング悪く
居合わせた誰かから
悪い方に噂が
広まっちゃったん
だね

そうでしたか…
あいつ何も
言わないから…

真相を
聞きだした
ついでだから
金魚の件について
の詫び状を

福富屋さんまで
届けてもらいに
行っておる

それで
小平太の
つかいとは？

食満留三郎

仲間を思いやる
その気持ち
大事にするんじやよ

失礼します

つい先刻にも
潮江文次郎
立花仙藏
中在家長次が
申し立てにきた
ところじやったがな

はて、
善法寺伊作だけは
来んかったな

僕は小平太を
信じているもの

六年生
素晴らしい
絆じや

はい！

お前は
行かんのか
留三郎

折角利吉さんが
忙しい間を縫って
自由参加型の
野外実習の指導を
申し出てくれたと
いうのに

やだなあ留三郎
そう思うなら
生きて帰って
来れるよう
祈っててよ

伊作
生きて帰って
来いよ

そうか
残念だな

折角の機材の
用意もなんかに
なってる

どうしても今日中に
終わらせんといかん
委員会の仕事があるんだ

行きたいのは
山々なんだけどな





夏場の作業は
夜に限るな



気張ってるか
留三郎

やはり私も
残ったのだ

お前に
言いたいことが
あってな

?

小平太!
お前どうして

それにしても
六はの部屋は
ものすごい
くっさいな

よくこの部屋で
寝られるものだ

はつきり言っ
てくれるなよ
もう慣れた

伊作は毎日
新薬の開発に
研究熱心か
えらいなあ

この匂いは
伊作の努力の賜物
というわけか
ならば咎めはできんな

…?

学園長先生に
申し立てをしてくれた
そうだな

嬉しかったぞ
留三郎

ああ
その事か

別に
俺だけじゃ
ねえよ

みんなお前が
そんなことする奴じゃ
ねえって信じてるから



ありがとう

おう



いいのかよ
あいつ怒るぞ

いいのだ!

私と文次郎の
仲だからな

酒の一つや二つ
勝手にあげたところで
怒りません



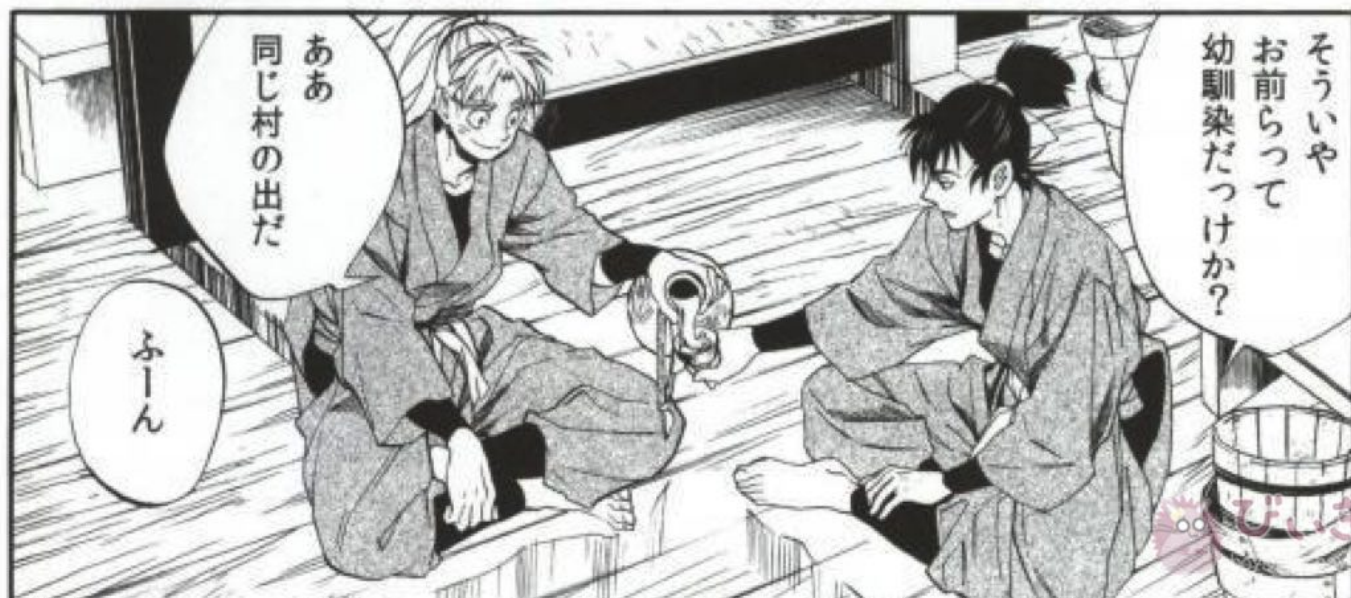
まさか勝手に
飲む気じゃ
ねえだろうな

そのまさかだ!



ところで
その酒
もしかして...

ああ
文次郎の酒だ



そういや
お前らって
幼馴染だったか?

ああ
同じ村の出だ

ふーん

しかしお前と一緒に
飲んだとわかれれば
怒るかもしれんがな

あいつ俺のこと
嫌っているからな

お前もどっこい
どっこいだな
留三郎

奴も相当鈍いが

ああ？
何のことだよ

今宵は皆
野外で一夜を過ごす
だろうから

六年長屋には
私と留三郎
二人きりだ

さあ飲め飲め

気にするな！

ぐい



口数が
少ないな

……

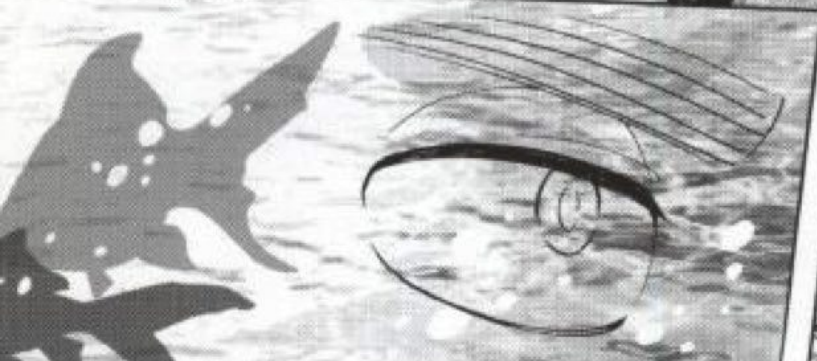


まるで金魚だ



もう
酔ったのか?

顔が真っ赤だぞ
留三郎





なはははは

おい...



悪いようには
せんぞ?

嫌か?



ほお
やる前から
自分の役割を
心得ているとな?

俺を女の代わりに
するつもりか?

まくわいたく
なった♪

揚げ足とるな



なんだよ...



ギンギンじゃ
ねーか

おうふ

...お前
男色のケが
あるんじゃ
ねえだろうな

ゴ
ゴ
ゴ



酔ったお前は男を
欲情させる
色気がある

はあ？



どうかな

お前に
勃起している
ということは
そうなのかもしれん



お前もチンコ
ギンギン
だぞ？

酒の所為だ!!!



哥来城仕え先で
いるいる苦勞する
かもしれんぞ

冗談じゃねえ！
俺は女が
好きなんだ



そうは
いうがな…





小平太のくせに!

小平太のくせにいゝゝ



小平太のくせに...ッ

お前 悪趣味だぞ!!

私に組み敷かれるのがそんなに屈辱か?

屈辱だわバカチンコ!!!

私なんだからこのだ



お前の羞恥に震える姿がもつと見たいのだ

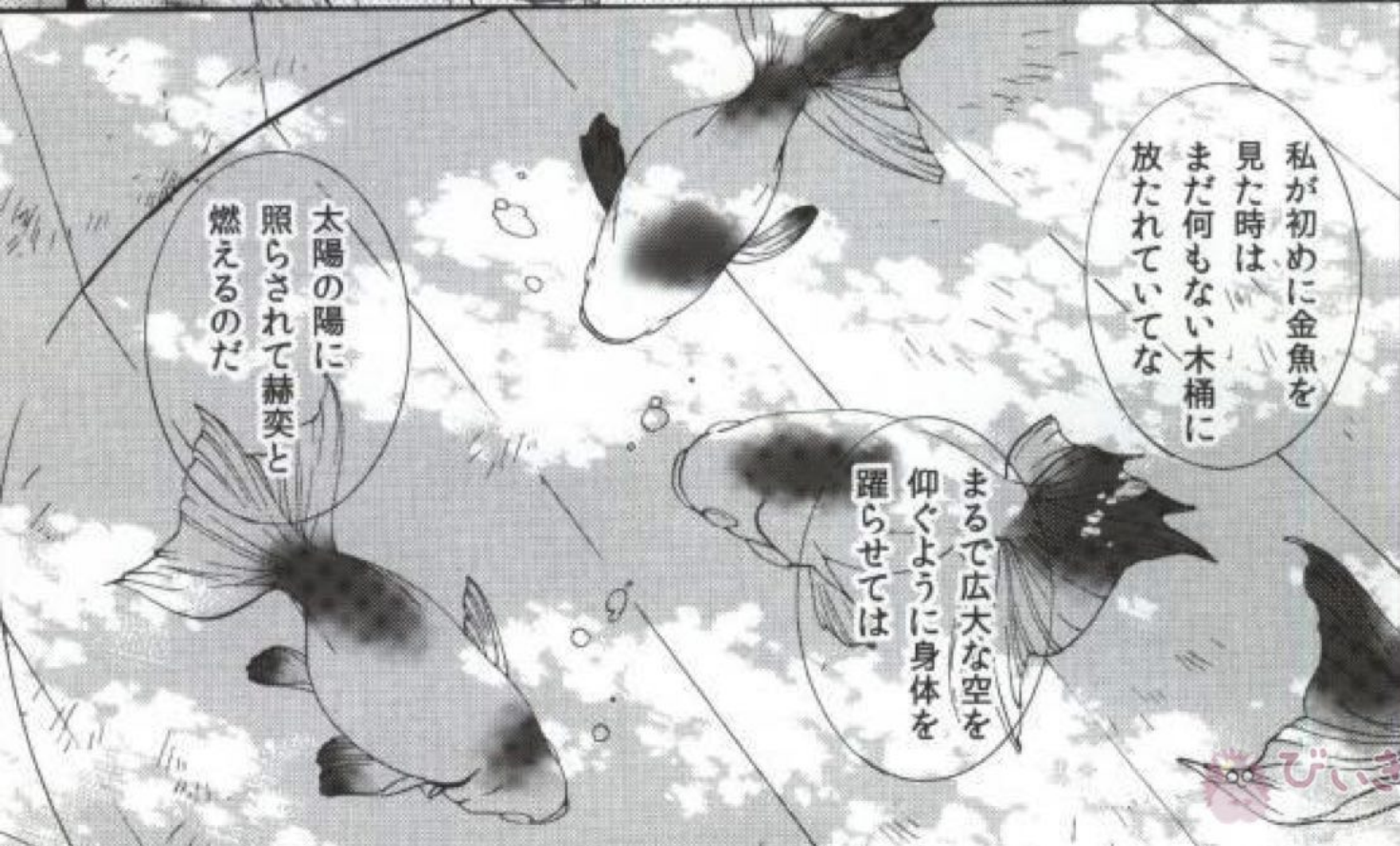
なははは かわいいなあ 留三郎



私は意地が悪いのだぞ?

...お前たちが思っているより





私が初めに金魚を見た時は、まだ何も木桶に放たれていな

まるで広大な空を仰ぐように身体を躍らせては

太陽の陽に照らされて赫々と燃えるのだ





うわあああああ
あああああああ
あああああッッ



事と次第に
よつては…
殺すよ?

おお伊作
おかえいッ



ちよつと小平太!
これどういう状況!?

ちゃんと説明
してよ!!

んあ?



裸なんだよ!!!
何で二人共

皆が帰ってくる
前に自室に
戻るつもり
だったんだが…

昨夜は留三郎と
酒を飲んでいて
それからの記憶が
ないのだが(嘘)

この状況からして
どうやら二人共
脱ぎ上戸らしいな



留三郎!!

うん

むく



うん……



それ本当なの
留三郎？

……



あああああ
俺の酒ええッ!!!

何かあった
っていうか
何かあった
んだー!!!

絶対何か
あった!

何しおらしく
なってるの
さーッ



何勝手に
飲んでんだ
バカタレエ!!

お前の物を
勝手に拝借
するのは
今に始まった
ことでは
なからう

いつもは
流してくれる
のに
今日に限って
何でそんなに
怒るのだ?



俺の酒
持ち出したの
お前か
小平太!!!

ああッ
一滴も残って
ねえ!!



やはり留三郎と
二人で飲んだことに
腹を立てているのか?

はあ?

なぜそこで
そいつが
出てくるんだよ



別に
怒っているではないか
昨夜のこと
怒っているのか?
あつい
あつい

今日も熱いな
留三郎
そだな



お前と酒を
飲むのは
金輪際お断りだ!!!
照りつける太陽に
当てられたんだ
水を浴びねえと
手からびちまう

中々どうして
悪くなかったぞ
よかったろ?
それを俺に
きくか?



今度は文次郎も
酒の席に
呼んでやろう
三人だと
もっと楽しいぞ

全身の体温が殺那に熱くなるのを感じたのは

大気の熱いのぼせた所為だ



落第忍者乱太郎ふぁんぶっく 其の参

七松小平太×食満留三郎

一件

